

第11回 市民と市長のふれあいトーク
報告書（要点）

日時：令和2年11月20日（金）午後7時から9時

会場：むさしのエコreゾート プラットホーム

テーマ：「新しい生活様式と環境配慮について」

出席者：環境の学校、PRプロジェクト、クリーン運営協議会、むさしの・こどもエコフォーラム、NPO むさしの市民エネルギー、クリーンむさしのを推進する会、水の学校サポーター、フードバンク三鷹 各団体より計8名

傍聴者 1名

市長、環境部長、環境啓発施設担当課長、市民活動担当部長

1 開会

自己紹介

2 意見交換

(1) むさしのエコreゾートに期待すること・行ってみたいこと

- ・ 駅から遠くわざわざ足を運ぶ人が少ない。ごみピットバーみたいなものがあれば、環境に興味のない人も楽しみながら環境の学習ができる。遊び心が必要。
- ・ ものづくり工房はおもしろい。牛乳パックやトイレットペーパーの芯などの廃材を使って親子で工作を楽しんでいる。高齢者が孫と参加して若い世代と交流できるなど、出会いの場も提供している。
- ・ 若い世代の間ではインスタ映えする施設としての興味もある。
- ・ 駅からの利便性は課題だが、旧クリーンセンターの建物を利用していることがセールスポイントになっている。新クリーンセンターや雨水利用のレインガーデン、浄水場、千川上水なども合わせて見てもらえるとよい。
- ・ 住宅地の中にごみ焼却場ができた歴史的な意味を理解してもらうことは意味がある。
- ・ エコreゾートの東側に階段と芝生広場がある。階段に座って音楽会や演劇などができるとよい。
- ・ ドラム缶をくりぬいて作ったスティールパンという楽器の演奏会をしたい。きれいな音色を楽しむだけでなく、廃材を利用する環境学習も兼ねている。
- ・ 外壁を利用してプロジェクションマッピングもよい。
- ・ 環境啓発と聞くと敬遠してしまう人もいると思うが、演奏会など親しみやすいイベントに参加しながら、自然と環境PRにつながるとよい。
- ・ 普段関心のない人にアプローチするためには、ミラーボールをつけるなど、マスコミがとびつきそうな「ありえないこと」を試みるとよい。
- ・ 文字で伝えるのは難しい。ふれあいの中で伝えるほうが効果的。手作りのお化け

屋敷など、参加型のイベントができるとよい。

- ・ 若い人は楽しくないと参加しない。脱出ゲームや謎解きなど、自分で作ったり考えたりするものがよい。

(2) むさしのエコレポートの周知方法について

- ・ 来てもらうだけでなく、駅前マルシェなどに出向いてPRするとよい。
- ・ ドラマ宣伝のラッピングカーのように、広報車が市内を回るのも効果がある。
- ・ 初めて一人暮らしをする学生や留学生などには茶碗のリユースやフードバンクの需要がある。必要とする人に届けられるようにしたい。
- ・ 武蔵野市は老壮大学、いきいきセミナーといった生涯学習活動に関心のある人が多い。そのような人たちに学習や社会参加の機会を提供できる場となるとよい。

(3) 新しい生活様式と環境配慮について

- ・ オンラインミーティングやSNS利用が増えてきたが、フェース トゥ フェースは重要。心をケアするためには、人とのふれあいが大切。
- ・ コロナの影響もあり、近場や屋外で散歩する人が増えている。グリーンインフラの整備を引き続きお願いしたい。村松友視氏の『鰻の瞬き』という作品に千川上水や武蔵野市役所が出てくる。著名な方の作品をPRに活用するとよい。
- ・ 「Zoom（ズーム）」（ウェブ会議用のアプリ）の使い方がわからない高齢者が多かったが、最近は徐々にできる人が増えている。ズームの使い方を教えることで新たなコミュニケーションができています。パソコンの画面を通してでも顔が見えることはよい。
- ・ 感染防止のため、あそべえに外部の人を入れなくなり、子ども向けイベントができなくなったが、家で作れる工作など新しい生活様式の中で、子ども向けの遊びなどを工夫していきたい。
- ・ 高校生にとっては、オンラインに対する技術的なハードルはない。休校になったおかげで、日中に他の学校の人や企業の人とズームミーティングができ、地方との距離がかえって縮まった。

(4) 最後に一言

- ・ インターネットでエコレポートと検索しただけではむさしのエコレポートにたどりつかない。さまざまな方法で広めていきたい。フードバンクの活動も広げたい。
- ・ 政府が2050年に脱炭素と言っているが、国や都から具体的な指示はあるのか。海外では環境市民会議も行われている。武蔵野市ではどのような計画があるか、また計画を立てた後にフォローするオブザーバー制度を作る予定はあるか。
(市長) 国や都から具体的な行動指針は示されていない。第6期長期計画を市民参加で策定している。長期計画に沿って行動していく。
- ・ メンバーの高齢化で（環境啓発活動の）継続が難しくなっている面もあるが、できるかぎりメッセージの発信を続けていきたい。

- ・ 地球温暖化を抑止するために、自分ができることを積み重ねていきたい。
- ・ 人も自然環境も大切に、持続可能な社会を作っていきたい。
- ・ エコ re ゴートの運用は市民とともに考えてほしい。
- ・ SNS 発信に協力していきたい。
- ・ 環境政策にかかるコストは利益が目に見えにくく、環境施策に予算を投じること
に市民の理解を得ることに課題があるが、日常生活に関わる重要な部分である。
新型コロナウイルス感染拡大を受け、人間社会がどうあるべきか、科学技術の進
歩と環境配慮をどう調和させるのか考える機会が増えた。自分と環境の接し方を
考えることによって、環境啓発活動が進んでいくことを期待している。

(市長) 地球環境は人間が使わせてもらっているという視点から、未来へ持続可能な、
人と環境と調和した行動が日常生活に現れるとよい。むさしのエコ re ゴートが
そのような思いを共有する施設になっていくとよい。

3 閉会